

塚戸小学校増築棟の整備方針（案）について

(付議の要旨)

塚戸小学校の増築棟の整備方針（案）を取りまとめたので、その概要を報告する。

1 主旨

平成28年8月10日の政策会議において、区立塚戸幼稚園の私立認定こども園への用途転換に向けた基本的な考え方が報告され、その中で、塚戸小学校の大規模化に伴う校庭・校舎の狭あい化対策のため、幼稚園の敷地の一部を分割して新BOP施設等を整備することが了承されたところである。これに基づき、塚戸小学校の増築棟の整備方針（案）を取りまとめたので、報告する。

2 整備方針の概要

(1) 基本的な考え方

塚戸小学校の新BOPは、体育館棟の1階から3階までと、隣接する校舎棟の1階の部屋を活動スペース及び事務室（合計204㎡）としており、児童や職員が各部屋に分散して活動している。職員を加配し、各職員がトランシーバーを携帯するなど、工夫して業務に当たっているものの、日々の運営の中での安全確保や児童の育ちの丁寧な支援に課題がある。このため、新BOP活動スペース及び事務室は、増築棟に集約する。

塚戸小学校の大規模化に伴い、平成17年度に指定校変更を制限するとともに、普通教室の確保を優先してきたため、算数の少人数学級や配慮を要する児童の個別指導などの個に応じた柔軟な支援を行うために必要な教室が不足している。また、今後の英語の教科化に伴い、英語の学習のための専用の教室の利用が求められている。このため、新BOPが増築棟に移転した後、現在の活動スペースや事務室をこれらの支援教室として転用する。

塚戸小学校では、今後緩やかな児童数の減が予測されている。しかしながら、周辺校である芦花小学校や烏山小学校などでは引き続き児童の増加が見込まれ、教室の確保とともに、学校運営にも影響を及ぼしている。このため、今回の増築を進めるにあたっては、この地域における児童数の推計や学校の適正規模を十分に見極め、指定校変更の制限の解除や学区域変更等の対応を検討すると同時に、工事に至るまでの間、適宜、増築の必要性を判断していく。

(2) 整備手法等

区立塚戸幼稚園の跡地を活用した増築棟に新BOP室等を整備する。

現在の新BOPの活動スペース等の転用に当たっては、必要最低限の改修とし、可能であれば備品の購入などで対応する。

塚戸小学校の今後の児童数や必要学級数の変動に対応するとともに、現在の校舎棟（築43年）体育館棟（築30年）であることを踏まえ、軽量鉄骨平屋建ての簡素な建物を増築することで整備費の抑制を図る。

3 施設の概要

(1) 敷地概要

所在地 世田谷区千歳台 6 - 7
敷地面積 既存面積 11,716㎡
増加面積 約1,000㎡
用途地域 第一種中高層住宅専用地域

(2) 建物概要

延床面積 約300㎡ 軽量鉄骨平屋建て
主な諸室 新BOP室2室、事務室、トイレ、学校用倉庫など

4 概算経費

(1) 概算事業費 約1.5億円

設計費、増築工事費、改修費

(2) 施設維持管理費(増築分) 約1,000千円/年増

小学校(一部除く)の過去3ヵ年決算額平均値(光熱費、修繕費、委託費)単価からの試算

5 今後の予定

平成29年11月 文教常任委員会
11月14日 教育委員会

平成30年度 基本設計、実施設計
塚戸幼稚園閉園
31年度 塚戸幼稚園解体、建設工事
32年度中 増築棟供用開始

《参考》児童数とクラス数の推移

	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35
児童数	1,082	1,045	1,040	982	938	880	806
クラス数	30	30	30	28	27	26	24

平成30年度以降は学務課推計等による。

平成17年度以降、指定校変更を制限している。